HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターンシップ参加学生アンケート調査結果 ： 2017年度北海道大学全学インターンシップ
Author(s)	亀野, 淳; 川上, あき
Citation	高等教育ジャーナル ： 高等教育と生涯学習, 25, 75-83
Issue Date	2018-05
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.25.75
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70485
Type	departmental bulletin paper
File Information	j25_9_HighEdu.25.75.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/J.HighEdu.25.75
J. Higher Education and Lifelong Learning **25** (2018)
〈Report〉

Results of Questionnaires about Internship for Hokkaido University Students in 2017

Jun Kameno[1)*] and Aki Kawakami[2)]

1) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Career Center, Hokkaido University

インターンシップ参加学生アンケート調査結果 ―2017年度北海道大学全学インターンシップ―

亀野　淳[1)**]，川上　あき[2)]

1) 北海道大学高等教育推進機構

2) 北海道大学キャリアセンター

Abstract ― This report contains an analysis of the outcome of a survey regarding participation in an internship implemented at Hokkaido University. According to the results of this analysis: (1) Motivation for participating can be divided into students who cited their choices of future career and industry, and those who cited improving their perspective on employment and professional awareness. (2) Satisfaction was generally high with the explanatory sessions, advance training, individual interviews, and achievement reports. (3) Over 90% of the students responded that their internship experience was useful in planning for both the future and their careers.

(Accepted on 25 February, 2018)

1. 本稿の目的

北海道大学では，2004年度よりインターンシップを全学教育の正課として位置づけて，①自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験による高い職業意識の育成，②実社会に触れることによる学習意欲の向上，③大学院においては，専攻に関連したより高度な実務の体験の3つを目的として実施されている（『北海道大学学生委員会インターンシップ専門委員会報告』(2003年)）。

北海道大学のインターンシップは，①全学インターンシップ，②各学部・研究科・学院のインターンシップの2本立てで実施している。①は学部・学年を問わず参加できるが，②は各学部等の専門に応

*) Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan
E-mail: jkameno@high.hokudai.ac.jp
**) 連絡先：060–0817　札幌市北区北17条西8丁目　北海道大学高等教育推進機構

4 月 24 日 (月)	「インターンシップではじめる！！就活準備ガイダンス」
4 月中旬～5 月 31 日 (水)	受入申込登録（企業）
5 月 8 日 (月)，10 日 (水)	全学インターンシップ説明会
5 月 8 日 (月)	参加申込登録（学生）
5 月 25 日 (木)	「インターンシッププレ研修①」
5 月 27 日 (土)	「インターンシッププレ研修②」
6 月 5 日 (月) ～13 日 (火)	参加希望企業名登録（学生）
6 月 16 日 (金)	第 1 次マッチング結果の通知
6 月 26 日 (月) ～29 日 (木)	先着マッチング（第 1 次マッチングがされなかった学生と企業のマッチング）
7 月 4 日 (火)，5 日 (水)	事前研修①実施
7 月 11 日 (火)，12 日 (水)	事前研修②実施
7 月 13 日 (木)	事前研修①②（函館キャンパス）実施
7 月中旬～8 月上旬	個人面談（学生と担当教員）
夏季休暇期間	インターンシップ参加（学生）
インターンシップ終了後 1ヶ月以内	研修成果レポート，事後アンケートの提出（学生）
10 月 31 日	「インターンシップ成果発表共有会」(学生，企業)

図 1．2017 年度全学インターンシップ実施スケジュール

じたインターンシップを実施しており，当該学部等に所属している学生が対象である。①の「全学インターンシップ」はどちらかといえば就業体験型のインターンシップが中心である[1)]。本稿では，本全学インターンシップに参加した学生に，参加終了後にアンケート調査を実施し，その結果を取りまとめたものである。特に，2017 年度のアンケート調査においては，全学インターンシップとは別に学生自ら公募型のインターンシップに参加していることも最近増加しつつあることから，その状況についての質問も追加し，その結果も概観する。

2．全学インターンシップの概要

全学インターンシップは，全学教育科目の「インターンシップ A」(2 単位：2 週間以上の実習)，「全学インターンシップ B」(1 単位：1 週間の実習）として，高等教育推進機構高等教育研究部の教員とキャリアセンター職員との共同で実施している。

おおよそのスケジュールは図 1 のとおりであるが，まず，インターンシップ希望学生に対する意識の醸成を図るため，4 月 24 日にキャリアセンターと共催で「インターンシップではじめる !! 就活準備ガイダンス」に開催し，インターンシップが就活や就職後の仕事とどのようにつながっているのかなどについて，インターンシップ経験のある本学卒業生や採用コンサルタントを招聘し実施した。

さらに，5 月 8 日（クラーク会館講堂）及び 5 月 10 日（工学部オープンホール）で「全学インターンシップ履修説明会」を開催し，昨年度に全学インターンシップに参加した学生の体験談，担当教員である高等教育推進機構の亀野淳准教授から制度の概要，スケジュール，手続き，心構えなどについて説明をし，キャリアセンターの川上あきインターンシップ・マネージャーから具体的な手続きについて説明を行った。また，今年度からの新しい試みとして，5 月 25 日，27 日，7 月 29 日には「インターンシッププレ研修」と称して，インターンシップ先企業の選び方やグループワーク，企業・業界研究の実践などを行った。

その後，6～7 月にかけて，参加希望学生と企業等のマッチングを行い，参加が決まった学生に対しては 7 月 4 日，5 日，11 日，12 日（函館キャンパスは 7 月 13 日）に講義形式の事前研修を実施し，その後，1 名 10 分あたりの個人面談も実施した。

この事前研修や個人面談では，インターンシップ先の企業・団体や業界等の研究を行うとともに，インターンシップを通じて検証したい仮説をインターンシップ前に設定し，インターンシップを通じてその検証を行った。同時に，学生はインターンシップ先の企業等に対して連絡を取り，札幌近辺の場合は

事前に訪問し，打ち合わせを行った。仮説の検証や学生自らの連絡・打ち合わせの実施は，1〜2 週間という短期間のインターンシップの効果をより高めるため，北大独自の方式となっている[2)]。また，最近企業からの要望が多い守秘義務の徹底についても時間を割いて説明を行った。

これらを経て，参加学生はそれぞれの企業・団体で夏季休暇中にインターンシップ実習を行った。

インターンシップ終了後には，1ヶ月以内に研修成果レポートを各自提出するとともに，10 月 31 日に，参加学生の「インターンシップ成果発表共有会」を開催し，受入企業にも参加していただき，インターンシップの成果を共有した。

3. アンケートの実施状況

本稿で使用するデータは 2017 年度に北海道大学で実施した全学インターンシップに参加した学生の事後アンケート調査結果である。

本アンケート調査は，参加学生のうち，153 人から回答があった。アンケート調査票は筆者から対象学生に事前研修時やインターンシップ終了後に電子メールで依頼をし，Web で回答してもらった。

回答学生の属性は表 1〜表 3 のとおりである。

なお，分析に当たっては，全回答の単純集計に加え，特徴的なものについては，性別，学年別（学部 1〜2 年生，学部 3 年生以上，大学院生），文系・理系別についても言及する。

表 1. 性別回答者数

	度数	%
男性	75	49.0
女性	78	51.0
合計	153	100.0

表 2. 学年別回答者数

	度数	%
学部生	132	86.3%
1 年	3	2.0%
2 年	25	16.3%
3 年	102	66.7%
4 年	1	0.7%
5 年	1	0.7%
大学院生	21	13.7%
修士 1 年	19	12.4%
修士 2 年	1	0.7%
博士 1 年	1	0.7%
合計	153	100.0%

表 3. 学部別回答者

	度数	%
学部生	132	86.3%
文学部	28	18.3%
教育学部	6	3.9%
法学部	27	17.6%
経済学部	16	10.5%
理学部	10	6.5%
薬学部	2	1.3%
工学部	27	17.6%
農学部	6	3.9%
水産学部	9	5.9%
総合理系	1	0.7%
大学院生	21	13.7%
文学研究科	1	0.7%
教育学院	1	0.7%
法学研究科	1	0.7%
経済学院	5	3.3%
環境科学院	4	2.6%
工学院	1	0.7%
総合化学院	2	1.3%
農学院	1	0.7%
生命科学院	4	2.6%
水産科学院	1	0.7%
文系	85	55.6%
理系	68	44.4%
合計	153	100.0%

4. アンケート結果

4.1　参加目的

インターンシップへの参加目的を第 1 位から第 3 位まで順序をつけて回答を得た。これによると，「自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択するための経験として」「就職希望である業種の実態を知りたい」という将来の職業や業種の選択をあげた学生と「社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知りたい」といった勤労観や職業意識の向上をあげた学生に分かれた。また，「社

表 4. インターンシップ参加目的（上位 3 位まで）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	得点
就職希望である業種の実情を知りたかった	23.2	12.7	8.7	1.62
学校での勉強と実社会との関連性を見つけたかった	7.3	12.7	11.4	0.85
自分がどういう職業や業種に向いているかを選択するための経験として	29.8	19.3	16.1	2.23
今後の学生生活の目標を明確にするため	7.3	12.7	14.8	0.89
社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知りたいと思ったから	20.5	20.7	19.5	1.83
学校での単位取得のため	0.7	0.0	0.7	0.04
インターンシップ先の企業等が就職希望の企業等であったから	2.0	0.0	3.4	0.13
卒論，修論のテーマをみつけるため	0.0	0.7	0.7	0.03
ビジネスマナーを身につけたかったから	0.0	0.7	4.0	0.06
学校での専攻分野に関連する業界の実情を知りたかった	2.0	2.7	2.0	0.20
社会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたかった	6.0	18.0	18.8	1.02
その他	1.3	0.0	0.0	0.07
	100	100	100	

（注）得点は第 1 位を 5 点，第 2 位を 3 点，第 3 位を 1 点として平均値を算出。表 5. も同様

表 5. インターンシップ参加目的（属性別）

	男性	女性	理系	文系	学部 1〜2 年生	学部 3 年生〜	大学院生
就職希望である業種の実情を知りたかった	1.59	1.65	1.28	1.90	1.00	1.76	1.76
学校での勉強と実社会との関連性を見つけたかった	0.93	0.78	0.96	0.77	1.56	0.65	0.95
自分がどういう職業や業種に向いているかを選択するための経験として	1.69	2.74	2.10	2.33	1.15	2.46	2.48
今後の学生生活の目標を明確にするため	0.89	0.88	0.94	0.84	1.44	0.70	1.10
社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知りたいと思ったから	2.07	1.61	2.01	1.69	1.85	1.95	1.24
学校での単位取得のため	0.00	0.08	0.09	0.00	0.00	0.06	0.00
インターンシップ先の企業等が就職希望の企業等であったから	0.03	0.23	0.12	0.14	0.19	0.12	0.14
卒論，修論のテーマをみつけるため	0.04	0.01	0.00	0.05	0.00	0.04	0.00
ビジネスマナーを身につけたかったから	0.07	0.05	0.07	0.05	0.00	0.08	0.05
学校での専攻分野に関連する業界の実情を知りたかった	0.16	0.23	0.26	0.14	0.26	0.15	0.38
社会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたかった	1.32	0.73	0.94	1.08	1.22	1.05	0.62
その他	0.14	0.00	0.15	0.00	0.19	0.00	0.24

会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたい」「今後の学生生活の目標を明確にするため」などもこれらに次いで高くなっている（表 4）。

これを学年別にみると，学部 1〜2 年生では「自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択するための経験として」「就職希望である業種の実態を知りたい」という将来の職業や業種の選択をあげた学生は相対的に少なく，「社会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたい」「今後の学生生活の目標を明確にするため」をあげた学生は相対的に多くなっている（表 5）。

4.2 実働日数

インターンシップの実働日数をみると，7 割以上が「5 日以下」（その多くは 1 週間，実働 5 日）（72.3%）となっている。次いで，「6〜10 日」（その多くは 2 週間，実働 10 日）（21.6%）となっている（表 6）

表 6. インターンシップ実働日数

	度数	%
5 日以下	107	72.3
6〜10 日	32	21.6
11 日以上	9	6.1
合計	148	100
平均日数	6.59	

4.3　希望業種・企業だったか

「希望業種だった」「希望企業であった」と回答した割合はいずれも 8 割弱であり，「希望業種ではなかった」「希望企業ではなかった」はいずれも 1 割にも満たず，多くの学生が希望に応じたインターンシップ先に行っていることがわかる（表 7）。

表 7. 企業業種・企業だったか

	度数	%
希望業種だった	114	77.0
どちらともいえない	21	14.2
希望業種ではなかった	13	8.8
希望企業だった	116	78.4
どちらともいえない	25	16.9
希望企業ではなかった	7	4.7
合計	148	100

4.4　プログラムの内容

「職場体験型」（社員，職員が行っている業務を体験したり手伝ったりした）が 48.0％と最も多く，次いで「企画型」（テーマが与えられ，それについて個人あるいはインターンシップ生で企画，分析などを行った）（27.7％），「職場見学，説明型」（企業，団体等の概要や業務内容について説明を受け，見学などを行った）（24.3％）となっている。

これを日数別にみると，「6〜10 日」では職場体験型がより多くなり，「11 日以上」では，「企画型」がより多くなっている（表 8）。

4.5　事前研修

本全学インターンシップでは，事前研修として講義形式のものを 2 回，個人面談を 1 回実施しているが，この事前研修の回数については約 8 割が「適当」と回答している（表 9）。

また，その効果については，「大変効果があった」「やや効果があった」を合わせると約 7 割が効果があったと回答している（表 10）。

表 9. 事前研修の回数についての考え

	度数	%
もっと増やしてほしい	3	2.0
適当	117	79.1
もっと少なくしてほしい	28	18.9
合計	148	100

表 10. 事前研修の効果

	度数	%
大変効果があった	28	18.9
やや効果があった	78	52.7
どちらともいえない	21	14.2
あまり効果はなかった	14	9.5
全く効果はなかった	7	4.7
合計	148	100
平均値	3.72	

（注）平均値は，（大変効果があった）＝ 5，（やや効果があった）＝ 4，（どちらともいえない）＝ 3，（あまり効果がなかった）＝ 2，（全く効果がなかった）＝ 1 として算出

4.6　説明会，事前研修などの満足度

履修のための説明会，事前研修，個人面談，終了後の成果レポートについて満足度をそれぞれ 5 段階で質問した。その結果をみると，いずれも「大いに満足」「満足」を合わせると 6〜7 割程度となっており，逆に「大いに不満」「不満」は 1 割程度である。平均値もいずれも 3.5〜3.8 程度と満足度は高くなっている（表 11）。

4.7　効果

インターンシップ参加後の効果をみると，「就職

表 8. プログラムの内容

	全体		5 日以下		6〜10 日		11 日以上	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
職場見学，説明型	36	24.3	28	26.2%	6	18.8%	2	22.2%
職場体験型	71	48	44	41.1%	24	75.0%	3	33.3%
企画型	41	27.7	35	32.7%	2	6.3%	4	44.4%
合計	148	100	107	100.0%	32	100.0%	9	100.0%

表 11. 説明会，事前研修，個人面談，成果レポートの満足度

	説明会		事前研修		個別面談		成果レポート	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
大いに満足	24	16.2	21	14.2	20	13.5	15	10.1
満足	78	52.7	83	56.1	62	41.9	82	55.4
どちらともいえない	40	27.0	33	22.3	51	34.5	44	29.7
不満	5	3.4	8	5.4	12	8.1	6	4.1
大いに不満	1	0.7	3	2.0	3	2.0	1	0.7
合計	148	100	148	100	148	100	148	100
平均値	3.80		3.75		3.57		3.70	

(注) 平均値は，(大いに満足)＝5，(満足)＝4，(どちらともいえない)＝3，(不満)＝2，(大いに不満)＝1 として算出

表 12. 全学インターンシップの効果

	全体	男性	女性	理系	文系	学部 1〜2 年生	学部 3 年生〜	大学院生
就職希望である業種の実情を知る	4.34	4.34	4.35	4.30	4.38	4.22	4.35	4.50
学校での勉強と実社会との関連性を見つける	3.89	4.00	3.78	4.00	3.78	4.26	3.78	3.95
自分がどういう職業や業種に向いているのかを選択する	4.17	4.14	4.20	4.07	4.25	4.19	4.21	3.95
今後の学生生活の目標を明確にする	4.18	4.16	4.19	4.22	4.14	4.30	4.18	4.00
社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知る	4.30	4.28	4.32	4.28	4.32	4.37	4.31	4.20
卒論，修論のテーマをみつける	2.13	2.19	2.07	1.81	2.40	2.07	2.14	2.15
ビジネスマナーを身につける	3.61	3.54	3.68	3.34	3.83	3.70	3.63	3.35
学校での専攻分野に関連する業界の実情を知る	3.17	3.23	3.11	3.01	3.30	3.59	3.05	3.20
社会経験を通じて自分に足りない能力を見つける	4.26	4.20	4.31	4.10	4.38	4.30	4.28	4.10

(注) 数値は，(大変効果があった)＝5，(やや効果があった)＝4，(どちらともいえない)＝3，(あまり効果がなかった)＝2，(全く効果がなかった)＝1 として算出

希望である業種の実態を知る」「社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知る」など参加目的と同様に効果があった項目としてあがっている。つまり，仕事に関する面はインターンシップによって効果があったと推測される。また，「社会経験を通じて自分に足りない能力を見つける」「今後の学生生活の目標を明確にする」も高くなっており，インターンシップに参加したことにより今後の学生生活のあり方を見直しきっかけにもなっているようである（表 12)。

4.8　全体の役立ち度，満足度

今回のインターンシップ経験が，将来設計やキャリア設計に役立ったかという質問に対して，半数が「大いに役立つ」(50.0%）と回答し，「役立つ」(48.0%）とあわせると 98.0%が役立ったと回答している。

これを属性別にみると，性別，文系・理系別では有意な差はないが，学年別では「学部 1〜2 年生」が「大いに役立つ」という回答割合が最も高く，「大学院生」が最も低くなっている。これは，大学院生ではすでに将来設計やキャリア設計がある程度明確になっている学生が多いことによるものと思われる。

実働日数別にみると，「11 日以上」で「大いに役立つ」という回答割合が高くなっている（表 13)。

また，今回のインターンシップ全体の満足度をみると，半数以上が「大いに満足」(56.1%）と回答し，「満足」(41.9%）とあわせると 98.0%が満足と回答している。

これを属性別にみると，性別，学年別，文系・理系別にみても大きな差はないが，「大いに満足」の割合だけをみると，男性，理系，低学年の方が高くなっている。

実働日数別にみると，「11 日以上」で「大いに満足」という回答割合が高くなっている（表 14)。

表 13. 将来設計やキャリア設計への役立ち度

	度数	%	男性	女性	理系	文系	学部 1〜2 年生	学部 3 年生〜	大学院生	5 日以下	6〜10 日	11 日以上
大いに役立つ	74	50	52.7%	47.3%	50.7%	49.4%	66.7%	51.5%	20.0%	47.7%	50.0%	77.8%
役立つ	71	48	44.6%	51.4%	49.3%	46.9%	33.3%	45.5%	80.0%	49.5%	50.0%	22.2%
どちらともいえない	3	2	2.7%	1.4%	0.0%	3.7%	0.0%	3.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%
合計	148	100	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均値	4.48		4.50	4.46	4.51	4.46	4.67	4.49	4.20	4.45	4.50	4.78

（注）平均値は，（大いに役立つ）＝ 5，（役立つ）＝ 4，（どちらともいえない）＝ 3 として算出

表 14. 全体の満足度

	度数	%	男性	女性	理系	文系	学部 1〜2 年生	学部 3 年生〜	大学院生	5 日以下	6〜10 日	11 日以上
大いに満足	83	56.1	60.8%	51.4%	64.2%	49.4%	70.4%	55.4%	40.0%	56.1%	46.9%	88.9%
満足	62	41.9	35.1%	48.6%	34.3%	48.1%	25.9%	42.6%	60.0%	42.1%	53.1%	0.0%
どちらともいえない	2	1.4	2.7%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	2.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
不満	1	0.7	1.4%	0.0%	1.5%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
合計	148	100	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均値	4.53		4.55	4.51	4.61	4.47	4.63	4.53	4.40	4.54	4.47	4.67

（注）平均値は，（大いに満足）＝ 5，（満足）＝ 4，（どちらともいえない）＝ 3，（不満）＝ 2 として算出

表 15. 公募型インターンシップへの参加状況

	度数	%	男性	女性	理系	文系	学部 1〜2 年生	学部 3 年生〜	大学院生
ない	109	73.6	82.4%	64.9%	80.6%	67.9%	92.6%	67.3%	80.0%
ある	39	26.4	17.7%	35.1%	19.5%	32.1%	7.4%	32.7%	20.0%
1 社	17	11.5	6.8%	16.2%	9.0%	13.6%	7.4%	14.9%	0.0%
2 社	11	7.4	6.8%	8.1%	3.0%	11.1%	0.0%	8.9%	10.0%
3 社以上	11	7.4	4.1%	10.8%	7.5%	7.4%	0.0%	8.9%	10.0%
合計	148	100	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4.9　公募型インターンシップについて

本アンケート調査は全学インターンシップに参加した学生を対象にしたものであるが，近年の傾向として企業が自社の Web サイトや就職情報会社を利用してインターンシップに参加する学生を募集することも多くなっている。そこで，本アンケート調査では全学インターンシップ以外に公募型インターンシップへの参加状況を質問した。

(1) 参加の有無

今夏に公募型インターンシップに参加したことが「ない」と回答した割合が 73.6% であるが，「ある」が 26.4% となっている。文系，女性，学部 3 年生以上では 3 割を超えている。

社数をみると，「ある（1 社）」が 11.1%，「ある（2 社）」「ある（3 社以上）」がそれぞれ 7.4% となっている（表 15）。

(2) 日数と内容

公募型インターンシップに参加した学生にその日数や内容を質問した。まず，日数をみると，約半数が「1 日」（47.1%）となっており，公募型ではいわゆるワンデイ・インターンシップが主流であるといえる。次いで「5 日」が 27.1% であり，平均日数は 2.8 日となっており，全学インターンシップを大幅に下回っている（表 16）。

その内容をみると，「企画型」が 52.9% と最も多く，次いで「職場見学，説明型」（28.6%），「職場体験型」（18.6%）となっている。これを全学インター

ンシップと比較すると，企画型がより多くなっており，職場体験型がより少なくなっている（表 17)。

表 16. 公募型インターンシップの日数

実働日数	度数	%
1 日	33	47.1%
2 日	10	14.3%
3 日	6	8.6%
5 日	19	27.1%
12 日	1	1.4%
15 日	1	1.4%
合計	70	100.0%
平均日数		2.8

表 17. 公募型インターンシップの内容

実働日数	度数	%
職場見学，説明型	20	28.6%
職場体験型	13	18.6%
企画型	37	52.9%
合計	70	100.0%

(3) 参加理由

全学インターンシップの他に公募型インターンシップに参加した最も大きな理由を聞くと，「もっと多くの企業でインターンシップに参加したかったから」が半数以上（56.4%）を占めており，より多くの企業へのインターンシップ参加希望があることがわかる。次いで，「希望する企業が公募で募集していたから」(17.9%)，「全学インターンシップでは希望する企業がなかったから」(10.3%) といった特定企業に関する理由が高くなっている（表 18)。

(4) 満足度

全学インターンシップと公募型インターンシップとの満足度の比較を見ると，かなりばらけた結果となっており，一概にどちらが満足度が高いとはいえない（表 19)。

5. まとめと今後の課題

本稿では，2017 年度の全学インターンシップに参加した学生に対する事後アンケート調査の結果をまとめたものである。本調査の分析からみられた特徴的なものをまとめると以下のとおりである。

第一は，学部低学年の参加目的は，希望業種や職種よりも今後の学生生活の目的を明確するといったものが多い。

第二は，実働日数は 5 日以下が 7 割を超えており，これは 2014 年度の結果に比べても増加している[3)]。

第三は，将来設計やキャリア設計に役立ち度や全体の満足度をみると，概ね高くなっているが，実働日数が「11 日以上」でその割合が高くなっている。

第四は，公募型インターンシップに参加したことがある学生は約 4 分の 1 程度であるが，文系，女性，

表 18. 公募型インターンシップの参加理由

	度数	%
全学インターンシップでは希望する企業がなかったから	4	10.3
希望する企業が公募で募集していたから	7	17.9
もっと多くの企業でインターンシップに参加したかったから	22	56.4
自分の専攻に関連したインターンシップに参加したかったから	3	7.7
希望する地域のインターンシップに参加したかったから	1	2.6
その他	2	5.1
合　　計	39	100

表 19. 公募型インターンシップの満足度

	度数	%
全学インターンシップの方がかなり高かった	9	23.1
全学インターンシップの方がやや高かった	9	23.1
同程度	9	23.1
公募型インターンシップの方がやや高かった	9	23.1
公募型インターンシップの方がかなり高かった	3	7.7
合　　計	39	100

学部 3 年生以上では 3 割を超えている。しかし，その日数はいわゆるワンデイ・インターンシップといわれる 1 日が半数近くを占めている。

本分析の結果からインターンシップ運営上の課題をみると，全体的に実働日数の短縮化が進んでいる。企業側の負担も大きいものと思われるが，学生の効果を考えると，実働 10 日程度は確保したい。

また，公募型にも多くの学生が参加している。ただし，本アンケートは全学インターンシップに参加した学生を対象にしたアンケート調査の結果であり，全学インターンシップに参加していない学生の公募型への参加状況は不明である。今後は明らかにする方法を検討していきたい。

注

1) 詳細は亀野（2004），亀野（2007），亀野（2010），亀野（2015）など参照。
2) 仮説の設定・検証については，亀野（2009）に詳しい。
3) 亀野（2015）によると，5 日以下は全体の 58.7% であった（p126）。

参考文献

亀野淳（2004），「インターンシップ　新たなステージに向けた大学の役割―北海道地域及び北海道大学の事例をもとに―」，『大学と学生』3，9–17

亀野淳（2007），「国立大学におけるインターンシップの事例」，高良和武（監修）・石田宏之・太田和男・古閑博美・田中宣秀（編）『インターンシップとキャリア―産学連携教育の実証的研究―』，学文社

亀野淳（2009），「体験型インターンシップの役割の再検証と仮説の設定・検証による向上効果」，『日本インターンシップ研究年報』10，17–24

亀野淳（2010），「国立大学におけるキャリア教育の展開と課題―北海道大学の取組みを事例として―」，『生涯学習研究年報』12，25–43

亀野淳（2015），「北海道大学における全学インターンシップの特徴と課題―参加学生アンケート調査結果分析（2014 年度）―」，『高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習―』22，133–141